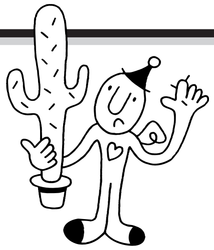
周辺機器選びのナビゲーター！
USBやIEEE1394対応機器をカンタン接続！
PCカードでひろがるパソコン活用法！

拡張の手引き

5

VALUESTAR NX
simplem



周辺機器をつなぐには…

接続方法を読んでから

接続方法は周辺機器によって異なります。買ってきていきなり接続するのではなく、まずはこのマニュアル、周辺機器に添付のマニュアルをよく読んで、接続方法を理解してからにしましょう。

確実に

周辺機器の接続や操作、はずしたネジの取り付けなどは確実に行ってください。周辺機器やパソコンが動作しなくなる場合があります。また、ドライバーなどでパソコンや周辺機器を傷つけないようにしてください。

あわてない

周辺機器を接続すると、ドライバなどのインストール画面が出てきます。意味がわからなくてもあわててはいけません。落ちついて、画面の説明をよく読んでみましょう。

やりたいこと別マニュアルガイド

パソコンの接続とセットアップをしたい .... まずこれ! 接続と準備
CD-ROM や DVD-ROM（DVD-ROM モデルのみ）を使いたい .... まずこれ! 接続と準備
マウスやインターネットパッドの使い方を知りたい .... 練習! パソコンの基本
キーボードで文字を打ってみたい、ワープロを使いたい .... 練習! パソコンの基本
バックアップを取りたい .... 練習! パソコンの基本、サポートセンタ
インターネットや電子メールを利用したい .... たのしもう! インターネット、サポートセンタ
アプリケーションを追加したい、削除したい .... サポートセンタ
どんなアプリケーションが入っているか知りたい、使いたい .... サポートセンタ
FAX を送受信したい .... サポートセンタ
年賀状やあいさつ状を作りたい .... サポートセンタ
パソコン用語の意味を知りたい .... サポートセンタ
パソコンが思うように動かない .... 困ったときの Q&A、サポートセンタ
再セットアップしたい .... 困ったときの Q&A
プリンタやオプション機器を取り付けたい .... 拡張の手引き
パソコンをインテリアのように使いたい、インナーシートを取りかえたい ..... コーディネート & スタイル

はじめに

プリンタやデジタルカメラのような機器をパソコンに接続して使うときには、このマニュアルの中から該当するPARTを探してください。

あなたのパソコンに周辺機器を取り付けたいと思ったときは、このマニュアルが役に立ちます。説明をよく読んで、まちがいのないように操作してください。

2000年1月　初版

808-884545-008-A

このマニュアルの表記について

◆手順は左、補足説明は右に（PART1 除く）

このマニュアルでは、操作手順は順番に画面を示しながら説明しています。実際のパソコンの画面を確かめながら操作を進めてください。パソコンの画面でむやみにマウスを操作すると、思わぬ画面が表示されることがあります。このマニュアルで、どこを操作すればよいのか必ず確認してください。また、ページの右側のグレーの部分には操作に関連する補足説明や用語解説などが記載されています。はじめてパソコンを扱う方は、右側の説明もよく読んでください。

◆このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています

⚠警告	注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
⚠注意	注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。
感電注意	注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。
	電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

チェック!!	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
用語	パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。
参照	マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
プリンタ、コネクタなど	「プリンター」や「コネクター」などの末尾に付く「ー」を省略して表記しています。これは、パソコンの画面に表示される用語や、パソコン関連書籍などでよく使われている表記に準拠しているためです。
CD-ROMドライブ	DVD-ROMモデルでは、DVD-ROMドライブのことを、CD-ROMモデルでは、CD-ROMドライブのことを指します。

◆このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

表をご覧になり、購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン　表の各モデル（機種）を指します。

型　名	型　番	表記の区分	
		CD-ROM/DVD-ROM	添付アプリケーション
VS46H/2B	PC-VS46H2B	CD-ROMモデル	ジャストホームモデル
VS500J/2D	PC-VS500J2D	DVD-ROMモデル	Office 2000モデル

◆本文中の画面

本文中の画面は、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面とは多少異なることがあります。

◆このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

（本文中の表記）	（正式名称）
Windows、Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System 日本語版

ご注意

(1)本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2)本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3)本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。
(4)当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5)本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6)海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7)本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 98 および本機に添付のCD-ROM、DVD-ROMは、本機のみでご使用ください(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
(8)ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

■輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。
本製品の輸出については、外国為替及び外国貿易法に基づいて通商産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

目次
CONTENTS

目次
CONTENTS

PART

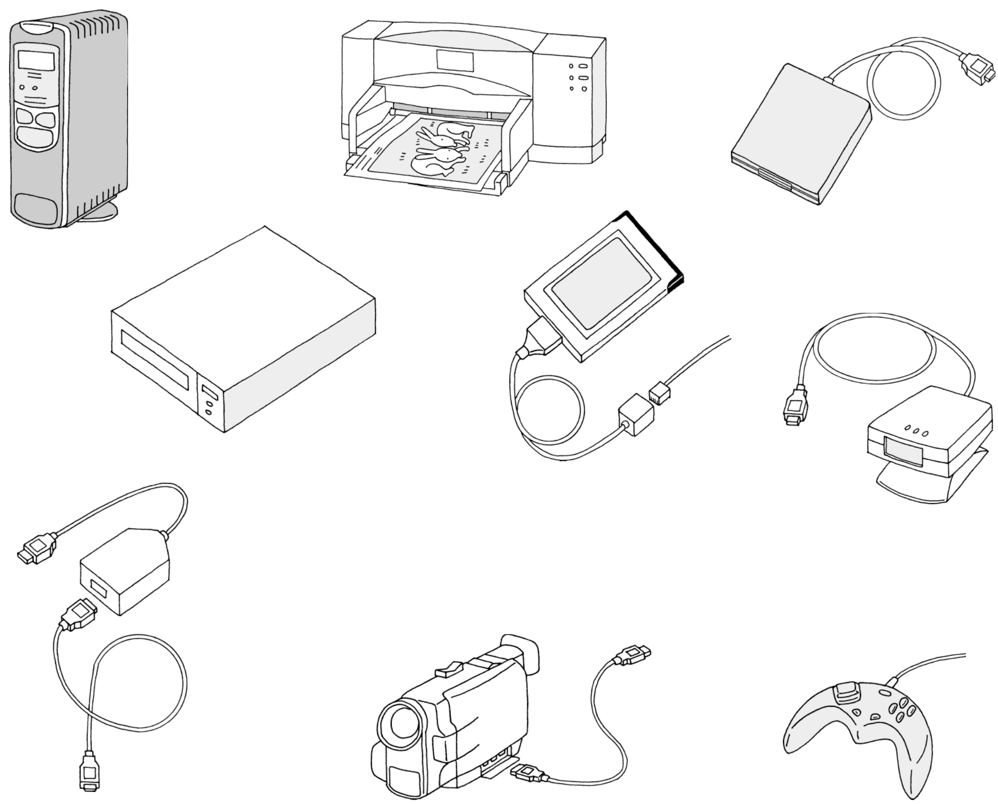
1

このパソコンで使える周辺機器

プリンタやデジタルカメラ、スキャナなどの周辺機器をつなげば、あなたのパソコンライフがますますカラフルで豊かなものになります。ここでは、このパソコンで使える周辺機器について紹介します。

周辺機器選びで失敗しないために

プリンタなどの周辺機器にはさまざまな種類があり、接続の規格にもいろいろあります。機器によっては、このパソコンには適さないものもあるので注意が必要です。



■事前に情報を集めよう

パソコン雑誌などでは、プリンタやデジタルカメラなど、ジャンル別に周辺機器の新製品を紹介する特集記事が載ることがよくあります。自分の欲しい製品がないか、チェックするときに役立ちます。また、インターネットでは、次のホームページでこのパソコンで使える周辺機器を紹介していますので、参考にしてください。

「98 Information」のアドレス（URL）
http://www.nec.co.jp/98/
「PICROBO」のアドレス（URL）
http://www.nec.co.jp/picrobo/
「simplem」のアドレス（URL）
http://www.simplem.com

■接続の規格に気をつけよう

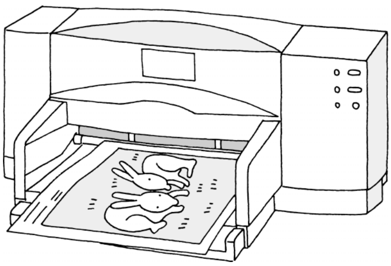
周辺機器の中には、パソコンのシリアルコネクタ（RS-232Cなどと記載）やパラレルコネクタ（セントロニクスなどと記載）に接続するタイプのものがあります。これらの機器はUSBポートバー（PK-UP012）を使えばこのパソコンに接続することもできますが、USB、IEEE1394、PCカードスロットに対応した機器を使うことをおすすめします。

プリンタ

プリンタは、パソコンで作った文書はもちろん、写真なども印刷することができます。プリンタの種類もいろいろあります。ここでは、プリンタの種類と接続の流れを簡単に説明します。

プリンタには次のような種類があります。自分の用途に合ったプリンタを選びましょう。

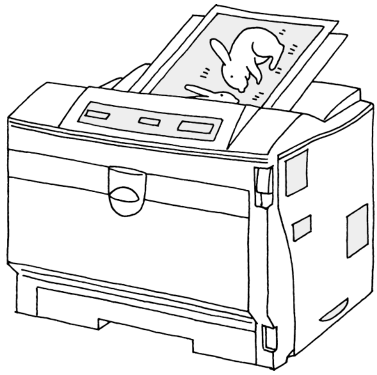
●インクジェットプリンタ



価格が手ごろなものからあり、個人用としては、もっともポピュラーなタイプです。細かい粒子状にした液体のインクを紙に吹き付けて印刷します。写真なども美しくカラー印刷できますが、印刷に多少時間のかかるものもあります。

●レーザープリンタ（ページプリンタ）

コピー機と同じようにトナーを紙に焼きつけて印刷するプリンタです。音が静かで、高速に印刷ができます。しかし、カラー印刷ができるものは高価なため、モノクロ印刷のものが主流になっています。



●ドットインパクトプリンタ

紙にインクリボンをあてて、その上からピンを打ち付けて印字する方式です。印字文字が粗く、大きな音をたてますが、カーボン紙などを使った複写式の伝票などを印刷するときにこのタイプを使います。

■プリンタを使う

ここではプリンタが使えるようになるまでの手順を説明します。
プリンタは、本体のUSBコネクタに接続します。

用途に合わせてプリンタを選ぶ

↓

接続ケーブルやプリンタの付属品など、
必要なものを用意する
（プリンタ添付のマニュアル参照）

↓

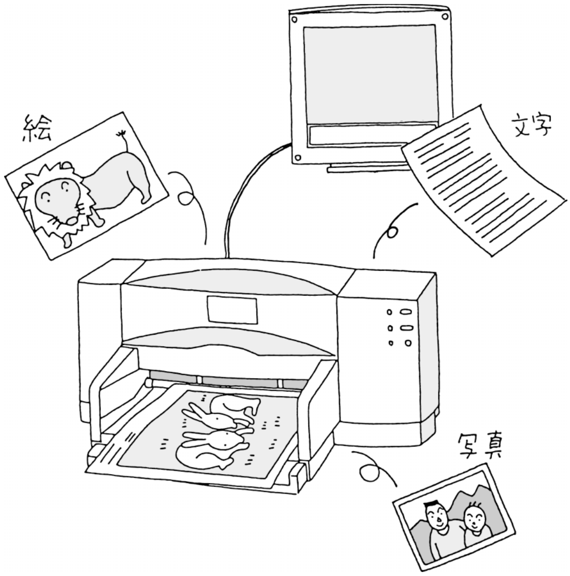
USBコネクタにプリンタを接続する

↓

プリンタ用ドライバ、アプリケーション
のインストール
（プリンタ添付のマニュアル参照）

→

正しく接続できたか確認する
（テスト印刷）



ほとんどの場合、専用のドライバやアプリケーション（プリンタに添付してあるもの）のインストールが必要になります（機種によっては、接続するだけですぐに使えるプリンタもあります）。詳しくはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

チェック!!

このパソコンにはパラレルコネクタはありません。USBコネクタに接続できるプリンタを選んでください。

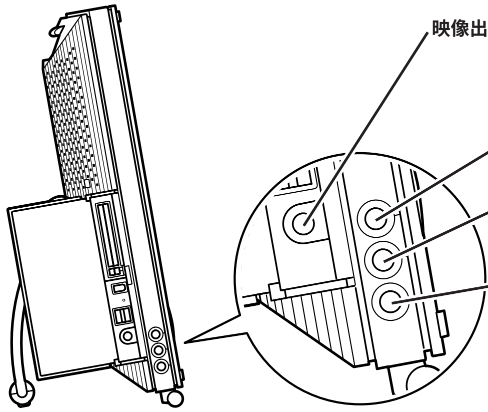
用語

ドライバ

情報をパソコンから周辺機器へ適切に伝えるためのソフトウェアです。周辺機器を接続したとき、最初に一度だけ組み込み（インストール）ます。

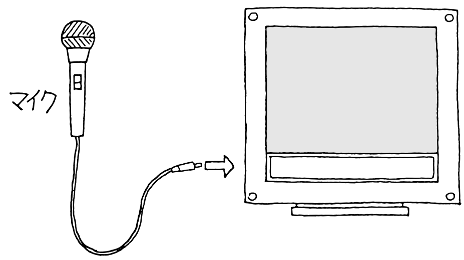
AV 機器を接続する

このパソコンにはマイクロホン、ヘッドホン、AV機器などを接続する端子があります。パソコンの音を外部のスピーカで鳴らしたり、マイクロホンでパソコンに音を取り込んだり、パソコンの画像をテレビの大画面で見たりすることができます。



■マイクロホン端子

この端子にマイクロホンを接続して、パソコンに音を取り込むことができます。



●音量の調節

マイクロホンからの入力音量は、Windows 98の「ボリュームコントロール」の機能で調節します。

●ハウリングについて

マイクロホンを本体のスピーカに近づけると、スピーカから「キーン」という大きな音が出ることがあります。これをハウリング現象といいます。故障ではありません。この場合は、次の対策を行ってください。

- マイクロホンをスピーカから遠ざける
- 「ボリュームコントロール」で入力音量（ボリューム）を小さくする

●取り込んだ音声の利用

マイクロホンから取り込んだ音声は、「サウンドレコーダー」というアプリケーションを使って録音し、ファイルに保存することができます。詳しくは、サウンドレコーダーのヘルプをご覧ください。「サウンドレコーダー」は、ランチ-NXの「マルチメディア」に入っています。

チェック!!

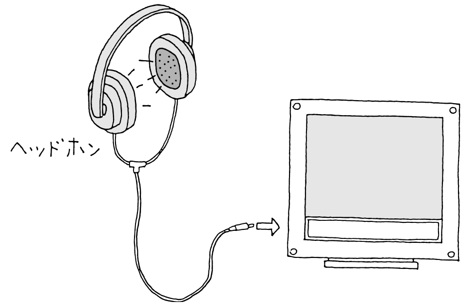
- このパソコンには、マイクロホンは添付されていません。モノラルミニプラグ付のマイクロホンを、別途購入してください。
- このパソコンにインストールされているSmartVoiceを使う場合は、ヘッドセットマイクのご購入をおすすめします。このマニュアル巻末の「ヘッドセットマイク購入申込書」で購入できます。

参照

ヘッドセットマイクのご購入→「ヘッドセットマイク販売サービスのご案内」（p.59）

■ヘッドホン端子

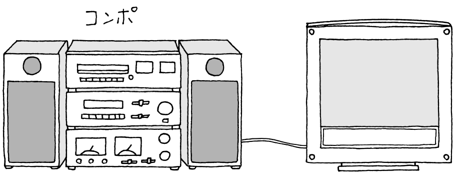
この端子にイヤホンやヘッドホンなどを接続して、パソコンの音を聴くことができます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのヘッドホンです。お持ちのヘッドホンのプラグが大きくて入らないときは、オーディオショップなどで「ステレオ標準プラグ→ステレオミニプラグ」変換プラグを購入してください。キーボードやインターネットパッドの【🔊】【🔉】ボタンで調節しても音量が小さすぎるような場合は、Windows 98の「ボリュームコントロール」の機能で調節してください。



チェック!!

イヤホンやヘッドホンを接続すると、本体内蔵スピーカからの音声は出なくなります。

■ LINE OUT 端子



この端子に外部スピーカやテープレコーダーなどのオーディオ機器を接続して、パソコンの音を聴いたり録音したりできます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。外部スピーカに付属のケーブルなどの規格を確認してください。

チェック!!

外部スピーカやテープレコーダーなどのオーディオ機器を接続すると、本体内蔵スピーカからの音声は出なくなります。

■映像出力端子（DVD-ROM モデルのみ）

この端子にテレビを接続することで、パソコンの画像や DVD Video の映像を大画面でお楽しみいただけます。

参照

DVD Video を見る→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「DVD プレーヤ」

チェック!!

- 接続には別売のビデオケーブルが必要です。
- この端子に接続した外部ビデオ機器でパソコンの画像を録画することはできません。また、ビデオ機器経由でテレビに表示することもできません（同方式でテレビ出力しているビデオ一体型テレビを含む）。ご注意ください。
- この端子に接続した機器で表示できる解像度は、640 × 480、800 × 600、1,024 × 768 ドットです。
- テレビに映し出すと、小さな文字などが判読できなくなる場合があります。
- テレビに表示した画面の位置がずれている場合などは、「Video-out Utility」で調整してください。

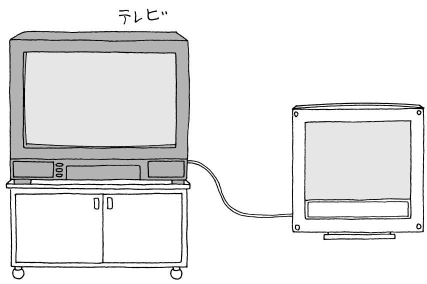
● Video-out Utility の使い方

タスクトレイにある をダブルクリックすると、「Video-out Utility」ウィンドウが表示されます。

「Video-out Utility」には次のような機能があります。

- 表示位置の調整
  「表示位置調整」の◁、△、▽、▷ボタンで調整する
- 画面拡大（4 倍拡大）機能
- 静止画キャプチャ（フリーズ）機能
- NTSC/PAL 出力切り替え機能

詳しくは、Video-out Utility のヘルプをご覧ください。



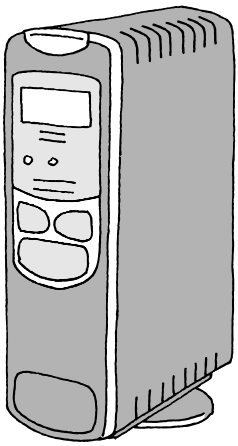
ターミナルアダプタ

ここでは、より高速にインターネットを楽しむのことができるISDN回線と、このパソコンにつなげられるターミナルアダプタ（ISDNターミナルアダプタ）について簡単に説明します。

ISDN回線を利用すると、モデムと比べてより高速なデータ通信速度でインターネットを楽しむことができます。さらに、次のようなメリットがあります。

- ノイズの混入や信号の減衰がない
- 一本の回線で二本分利用できるため、インターネットに接続しながら電話をかけられる

ISDN回線を利用するときには、ターミナルアダプタのほかにDSUという装置が必要です。DSUを内蔵するタイプのターミナルアダプタもあります。



チェック!!

ISDN回線を使って高速でインターネットに接続するには、プロバイダがISDN回線に対応していないと接続できません。

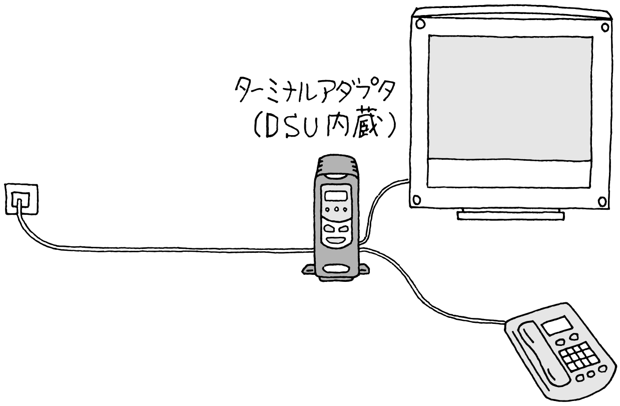
ISDNターミナルアダプタを使う前に次のことを確認してください。

- ターミナルアダプタがUSBコネクタに接続できること（このパソコンにはシリアルコネクタはありません）
- ISDN回線の契約をしていること
- DSUが内蔵されていること（ターミナルアダプタにDSUが内蔵されていない場合、別途用意してください）
- ISDN回線用のコンセントがモジュラー式になっていること

■ターミナルアダプタを使う

ターミナルアダプタは、本体のUSBコネクタに接続します。また、無線対応のターミナルアダプタ（AtermIW50/D）とマルチモバイルカード（AtermRC25）を利用することもできます。こうすると、本体とターミナルアダプタをケーブルで接続する必要がなくなります。

接続後、ドライバやターミナルアダプタを使うためのアプリケーションのインストールが必要になります。
詳しくはターミナルアダプタに添付のマニュアルをご覧ください。



ターミナルアダプタを接続したら、インターネットの設定をISDN回線用に変更してください。

ISDN回線に契約していない場合は、契約する

↓

ターミナルアダプタ（必要に応じてDSUも）、必要なケーブル類を用意する

↓

パソコンにターミナルアダプタを接続する

↓

必要なドライバ、アプリケーションをインストール（ターミナルアダプタ添付のマニュアル参照）する

↓

インターネットの設定をISDN回線用に設定する

デジタルカメラ

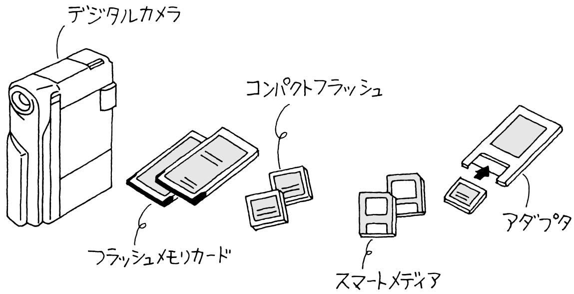
デジタルカメラで撮影した写真(画像)をこのパソコンに取り込んで、画像データとして保存すると、いろいろなアプリケーションで活用できます。

■用意するもの

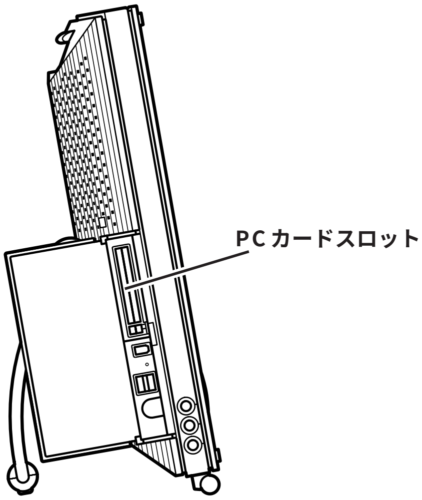
・デジタルカメラ
・フラッシュメモリカードまたは PC カードスロット用のアダプタ

フラッシュメモリカードに写真を記録するタイプのデジタルカメラの場合、カメラからフラッシュメモリカードを取り出して、そのままこのパソコンの PC カードスロットに取り付けることができます。

コンパクトフラッシュやスマートメディアなど、小型のメモリカードに写真を記録するデジタルカメラの場合、小型のメモリカードをPCカードスロットにセットできるようにするための専用のアダプタが必要になります。



■画像データを取り込む



サイドカバーを開けたところ

デジタルカメラで写真を撮る

↓

PC カードスロットにメモリカードをセットする(必要に応じてPCカードスロット用のアダプタを使う)

↓

画像を取り込む(デジタルカメラのマニュアル参照)

参照
PC カードの取り扱い方→「PART4 PC カードを使う」(p.25)

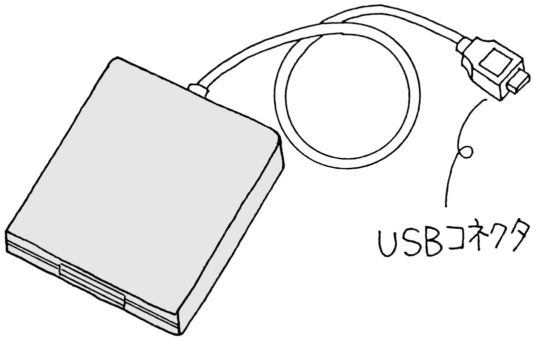
その他の機器のご紹介

その他の周辺機器の紹介です。ここでは比較的よく使われる周辺機器を簡単に説明します。周辺機器選びの参考にしてください。

■3.5インチフロッピーディスクドライブ

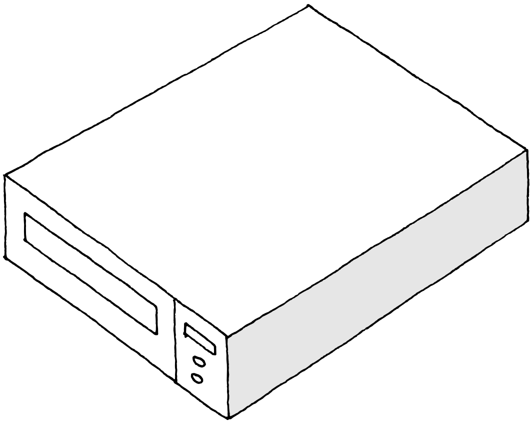
3.5インチフロッピーディスクドライブは、友人からもらったフロッピーディスクのデータを読み取ったり、このパソコンのデータをフロッピーディスクに書き込んだりするために必要な周辺機器です。

フロッピーディスクは、記憶容量がハードディスクの1000分の1以下しかありませんが、文字や数字が中心のデータをやりとりするには、もっとも手軽に使える記録メディア（媒体）です。最近は、インターネットや電子メールでデータをやりとりすることが多くなりましたが、インターネットに接続していない人へデータを渡すときには、フロッピーディスクが便利です。
3.5インチフロッピーディスクには「2HD」（1.44Mバイト）と「2DD」（720Kバイト）の2種類の規格がありますが、一般に販売店で売られているのは「2HD」（1.44Mバイト）が主流です。
このパソコンでは、USBに対応したフロッピーディスクユニット（PK-UP009）が使えます。



■CD-RWドライブ

通常のCD-ROMは、データを保存できない読み取り専用のメディアです。CDにデータを保存するには、CD-R（1回だけ書き込み可能で書き換え不可）やCD-RW（何度も書き込み / 書き換え可能）など専用のメディアと、CD-RWドライブという装置が必要です。CD-RやCD-RWには最大650Mバイトと大量のデータが保存できるため、ハードディスクドライブのバックアップなど、大量のデータを保存したいときに、CD-RWドライブがあると便利です。



CD-RWドライブでデータを保存したCD-RやCD-RWは、このパソコンに内蔵のCD-ROMドライブ（またはDVD-ROMドライブ）で利用できます。

CD-RWドライブを購入するときは、接続の規格に注意してください。SCSIインターフェイス対応のものは、別途SCSIカード（PCカードスロットに取り付けます）が必要です。IEEE1394対応のものは、そのままこのパソコンに接続できます。

その他の大容量記憶装置には、以下のようなものがあります。これらもSCSIインターフェイス対応機器です。

・外付け用ハードディスクドライブ
データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくと、ハードディスクが足りなくなってきます。そんなときは外付け用ハードディスクを増設して容量を増やすことができます。

・MOディスクドライブ
3.5インチMOディスク（光磁気ディスク）を扱うことができるドライブです。3.5インチMOディスクの記憶容量は128Mバイト、230Mバイト、540Mバイト、640Mバイト、1.3Gバイトがあり、扱えるディスクがドライブの種類によって異なります。日本国内でもっとも普及している大容量メディアです。

そのほかにPD、Zip、Jazなどの大容量メディアがあります。

■LANカード

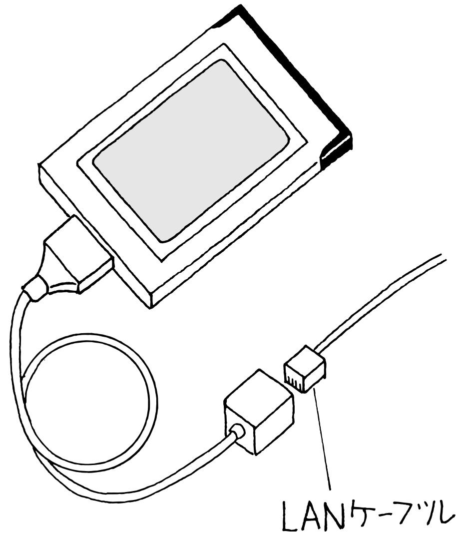
LANカードはこのパソコンをLANに接続するためのPC カードです。

LAN（Local Area Network）は同じ建物の中など比較的近距離で、複数のコンピュータを接続したネットワークのことです。LANでコンピュータ同士を接続すれば、データの移動、ファイルやプリンタの共有などが簡単にできるようになります。

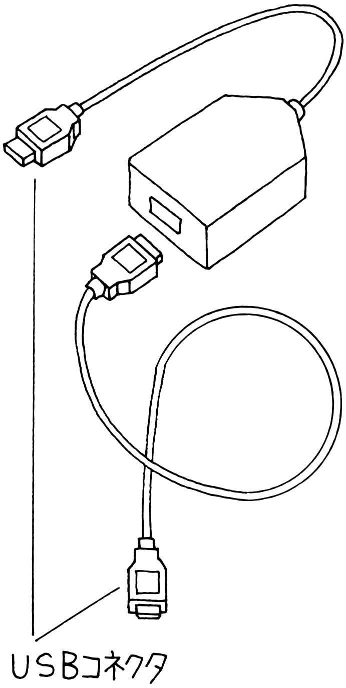
LANに接続するためのコネクタには、いくつかの異なる規格があります。現在市販されているLANカードの多くは10BASE-Tまたは100BASE-TXという規格のコネクタに対応するものです。それ以外のコネクタに接続する場合、パソコンの販売店などにご相談ください。

参照

PC カードの使い方→「PART4 PC カードを使う」（p.25）



■USBリンクケーブル



USBインターフェイスを使って、複数のパソコン同士（4～5台までを推奨）をUSB リンクケーブル（PK-UP010）で接続すると、LAN カードで接続したときと同じようにデータの移動、ファイルやプリンタの共有などができるようになります。

USB インターフェイスを搭載したパソコン同士ならLANカードを使うよりも手軽で簡単に接続できます。

参照

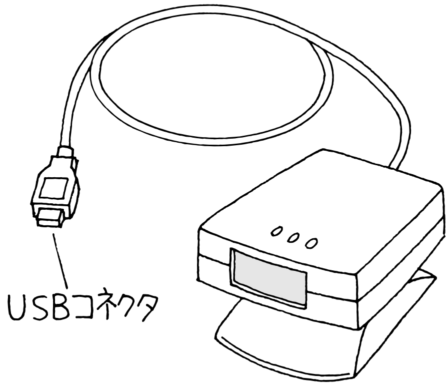
USB 対応機器の使い方→「PART3 USB 対応機器を使う」（p.19）

■赤外線通信インタフェースユニット

赤外線通信インタフェースユニット（PK-UP007）を使えば、赤外線通信に対応したノートパソコンなどとケーブルで接続せずにデータをやりとりできます。

赤外線通信は、無線でデータのやりとりができますが、通信できる距離や角度などに制限があります。詳しくは赤外線通信インタフェースユニットのマニュアルを参照してください。

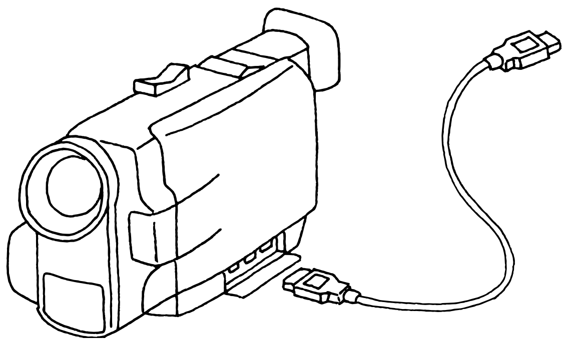
このパソコンで赤外線通信インタフェースユニットを使うときは、USB コネクタに接続します。USB コネクタに接続できるものを選んでください。



参照

USB 対応機器の使い方→「PART3 USB 対応機器を使う」（p.19）

■デジタルビデオカメラ



このパソコンにデジタルビデオカメラを接続すると、ビデオ映像をパソコンに取り込むことができます。また、DV 端子（IEEE1394 コネクタ）付のデジタルビデオカメラなら、一本のケーブルで映像も音声も高速に取りこむことができます。

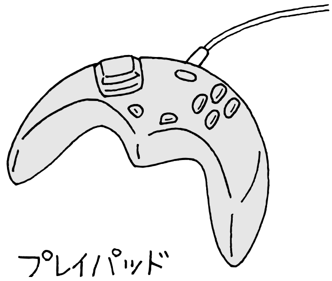
デジタルビデオカメラの接続方法や使用方法については、「PART5 IEEE1394 対応機器を使う」（p.33）および、デジタルビデオカメラに添付のマニュアルをご覧ください。

参照

IEEE1394 について→「PART5 IEEE1394 対応機器を使う」（p.33）

■プレイパッド

ゲーム専用のコントローラで、パソコンでゲームを楽しむときに接続して使います。このパソコンには、プレイパッド（PK-GP101E）が接続できます。
このパソコンでプレイパッドを使うときは、USBコネクタに接続します。USBコネクタに接続できるものを選んでください。



参照

USB対応機器の使い方→「PART3 USB対応機器を使う」（p.19）

PART

2

機器を取り付ける前に

パソコンの周辺機器の中には、接続してからさまざまな設定や準備が必要になるものがあります。ここでは、機器を取り付ける前に知っておいた方がよい基本的な知識を紹介します。

接続から準備完了までの流れ

周辺機器を接続すると、パソコンの画面に見慣れない表示が出てきて、そのまま止まってしまったように思えることがあります。「故障かな？」とあわてる必要はありません。はじめて新しい機器を接続したあとの流れは、次の 3 通りのパターンに分かれます。あらかじめ頭に入れておきましょう。

新しい周辺機器を接続すると

プリンタなど、電源スイッチのある周辺機器を利用する場合、あらかじめ周辺機器の電源を入れてから接続してください。

何も表示されない

何か表示されたが自動的に閉じた

何かウィンドウが表示されて、しばらくすると下のようなウィンドウが出て止まった



周辺機器に添付のドライバなどをインストールする（次ページ参照）

接続した周辺機器が正常に使えるかどうか確認する

接続した機器は正常に使えますか？

No

周辺機器のケーブルがしっかりと差し込まれているか確認して、もう一度取り付け直してください。それでも使えない場合は、このパソコンに対応していないか、壊れている可能性があります。ご購入元または周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

Yes

これで接続した周辺機器は使えます。

ドライバなどをインストールする

接続した周辺機器を使うためにはほとんどの場合、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要になります。
ドライバは、周辺機器によって異なります。あらかじめパソコンに用意されているドライバが使える場合と、周辺機器に添付されているドライバが必要な場合があります。

下のような画面が表示されたら、まずは画面の指示にしたがって作業を進めます（ 次へ＞ をクリックしていってください）。



●パソコンに用意されていたドライバが使える場合

下のような画面が表示された場合は、このパソコンにあらかじめ用意されていたドライバがインストールされました。そのまま 完了 をクリックしてください。



これでドライバのインストールは終了です。

Windows を再起動する必要がある場合があります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

●周辺機器に添付のドライバが必要な場合

下のような画面が表示された場合は、周辺機器に添付のドライバが必要な場合です。この場合は周辺機器に添付のマニュアルにしたがってドライバをインストールしてください。



周辺機器によっては専用のアプリケーションをインストールする必要がある場合があります。詳しくは、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

パソコンを再起動するように画面に表示される場合があります。「再起動」や「Restart」などと書かれたボタンをクリックすると、自動的にパソコンの再起動が行われます。

周辺機器によっては、フロッピーディスクでドライバが添付されていることがあります。その場合は、別売のUSB対応のフロッピーディスクユニット(PK-U009)を使うか、ホームページ上からドライバを入手できないか周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

周辺機器の取り外しと再接続

プリンタなどのUSB対応機器、デジタルビデオカメラなどのIEEE1394対応機器は、パソコンの電源を入れたまま、いつでも取り付け、取り外しができます。
同じ周辺機器を再接続したときは、ドライバなどをインストールする必要はありません。ただし、画面が少しのあいだ止まったり、何かウィンドウが表示されたりすることがあります。これは機器の故障ではありません。しばらく待てば使えるようになります。

PART

3

USB対応機器を使う

USBコネクタには、いろいろな周辺機器を接続して利用することができます。ここでは、USB対応機器の使い方について説明します。

ユーエス ビー

USBとは

USB（ユーエスビー）は、パソコン用インターフェイスの新しい規格です。まずは、このパソコンでUSB対応機器を使うための基礎知識を知っておきましょう。

USBは、Universal Serial Bus（ユニバーサル シリアル バス）の頭文字をとったものです。

用語

インターフェイス

パソコンと周辺機器を接続するコネクタなど、機器を接続するときに必要な共有される部分のことです。

USBなら簡単接続

USB対応機器は、電源を入れた状態のまま接続します。

本体の電源を入れてWindowsを起動する

↓

必要に応じてUSB対応機器側の設定を行う

USB対応機器のマニュアルで確認してください。

↓

USBコネクタにプラグを差し込む

パソコンのUSBコネクタにプラグを差し込むと、自動的に設定が始まります。

↓

正しく接続できたか確認する

確認のしかたは、機器によって異なります。

↓

設定が終わったら準備完了。
すぐに使い始めることができます。

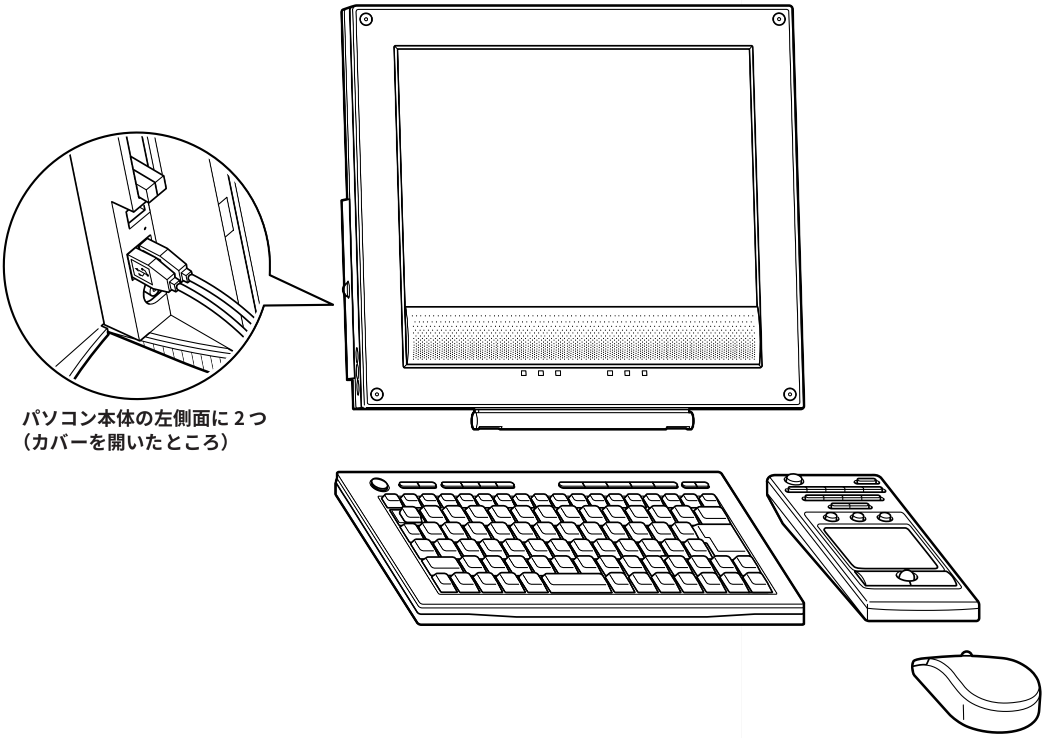
プリンタなど、電源スイッチのある周辺機器を利用する場合、あらかじめ周辺機器の電源を入れてから接続してください。

機器によっては、ドライバの設定作業が必要になることがあります。また、プラグを差し込む前にドライバをインストールする必要のある機器もあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB対応機器は、一般の周辺機器とは異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできるようになっています。ふだんは取り外しておいて、必要になったときだけ接続し、使い終わったら取り外す、というような使い方ができるのです。

USB コネクタについて

このパソコンには、本体の左側面に2つのUSBコネクタが用意されています。接続する機器に応じて、どのコネクタを使用しても構いません。もちろん、すべてのコネクタに別々のUSB対応機器を接続して、同時に使用することもできます。



パソコン本体の左側面に2つ
(カバーを開いたところ)

なお、標準で用意されているUSBコネクタだけで足りないときは、別売の「USB ハブ」を接続して、コネクタの数を増やすことができます。

参照
USB ハブについて→このPARTの「USB ハブを使う」(p.24)

ＵＳＢ対応機器を接続する

パソコンの電源を入れたままの状態でUSB対応機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終わったら、すぐに使い始めることができます。

⚠警告

感電注意

雷が鳴り出したら、パソコンや電源ケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル（電話線）、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

接続する前に

USB対応機器を接続する前に、次の準備が必要です。

●接続するUSB対応機器のマニュアルを読む

あらかじめ、機器に添付のマニュアルをよく読んでおきます。
機器によっては、接続する前にドライバのインストールや、各種設定スイッチ等の設定が必要な場合があるので、マニュアルにしたがって設定します。
接続後に設定が必要になることがあるので、CD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば、用意しておきます。

●パソコンの電源を入れておく

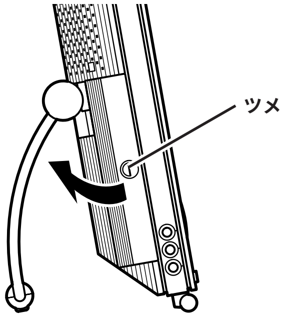
USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態で接続できます。あらかじめパソコンの電源を入れて、Windowsが使えるようにしておきましょう。

チェック!!

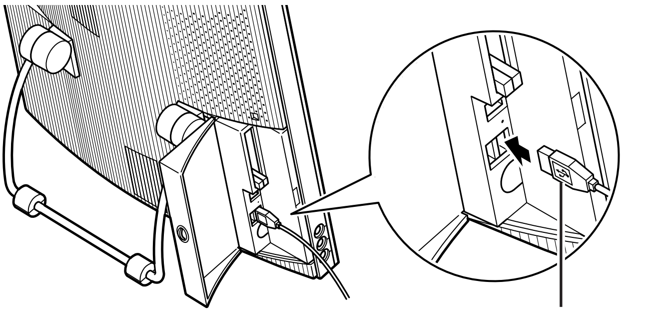
- USB対応機器によっては、本機にあらかじめドライバが用意されているものもあります。
- USB対応機器に、Windows 95対応のドライバしか添付されていないこともあります。その場合、USB対応機器をWindows 98で使うために専用のドライバが別に必要となることがあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルや、機器のメーカーまたはご購入元などにお問い合わせください。
- USB対応機器によっては、フロッピーディスクでドライバが添付されていることがあります。その場合は、別売のUSB対応のフロッピーディスクユニット(PK-UP009)を使うか、ホームページ上からドライバを入手できないかUSB対応機器のメーカーにお問い合わせください。

USB コネクタにプラグを差し込む

1 **本体左側面のサイドカバーを開ける**
ツメに指を引っかけて、矢印の方向に開きます。



2 **パソコン本体の USB コネクタに、プラグを差し込む**



USB コネクタは 2 つ並んでいます。どちらのコネクタに差し込んでも構いません。また、種類の異なる USB 対応機器を 2 つ同時に接続できます。

プラグを差し込んでそのまま待っていると、
自動的に画面の表示が切り替わり、Windows
デスクトップの画面に戻る



Windows デスクトップの画面に戻らずに次のような画面が表示された場合は、「PART2 機器を取り付ける前に」（p.15）をご覧ください。

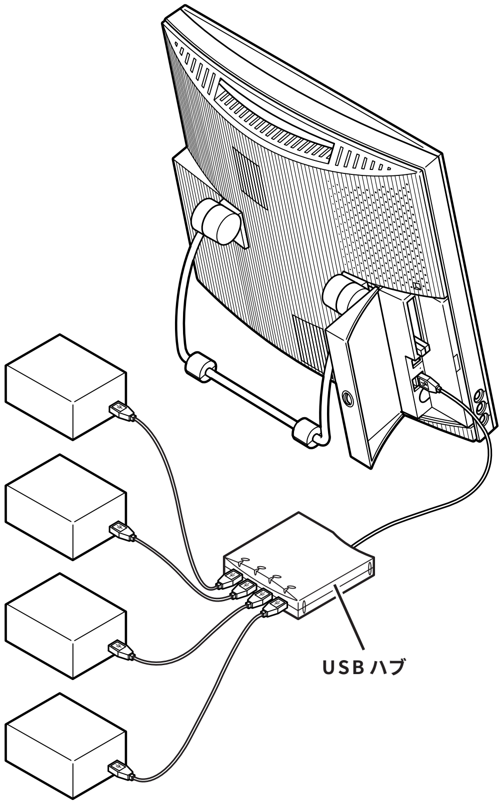


3 **サイドカバーを閉める**

USB対応機器のケーブルは、サイドカバー下部の切れ込みから出してください。

USB ハブを使う

別売の USB ハブ（PK-UP002 など）を使えば、1 つの USB コネクタを 4 つの USB コネクタに分岐して増やすことができます。



チェック!!

USB ハブに USB 対応機器を接続する場合、本体に先に USB ハブを接続してから接続してください。

なお、USB キーボードを USB ハブに接続するときは、次の手順で接続してください。

1. 本体の USB コネクタにキーボードを接続する
2. 本体の空いている USB コネクタに USB ハブを接続して認識させる
3. USB ハブにキーボードを接続する

PK-UP002 の場合、4 つの USB 対応機器を接続することができます。

USB ハブの詳しい使い方については、USB ハブのマニュアルをご覧ください。

チェック!!

複数の USB 機器を同時に使うと、機器によっては処理速度が低下することがあります。

PART

4

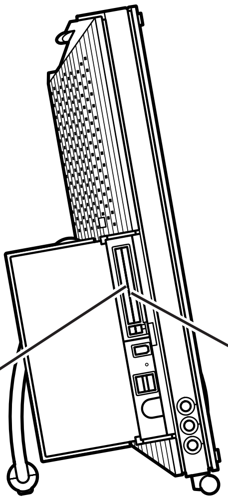
PC カードを使う

PCカードは、クレジットカードを厚くしたような形をしている周辺機器です。PCカードは種類が豊富な上に、取り扱いやすく、パソコン側の設定も簡単にできるので、このパソコンの機能を手軽に拡張することができます。

PC カードスロットについて

このパソコンにはPCカードスロットがあり、PC Card Standardに準拠したPCカードを使うことができます。

PCカードスロットは、PCカードをセットするためのスロットです。
このパソコンには、図のように2つのPCカードスロットがあり、それぞれのスロットにTYPE ⅠまたはTYPE ⅡのPCカードを1枚ずつ、または両方のスロットを合わせてTYPE ⅢのPCカードを1枚、セットして使用できます。



● CardBus対応PCカードについて

CardBus（カードバス）はPCカードの拡張仕様で、高速にデータ転送ができます。
このパソコンでは、CardBus対応のPCカードを、左右のスロットに1枚ずつ、計2枚同時に使用することができます。

PC Card Standard準拠のPCカードは、カードの厚さによってTYPE Ⅰ、TYPE Ⅱ、TYPE Ⅲの3種類に分けられます。

- TYPE ⅠのPCカード
  厚さ約3.3mm
- TYPE ⅡのPCカード
  厚さ約5.0mm
- TYPE ⅢのPCカード
  厚さ約10.5mm

チェック!!

このパソコンではZVポート対応のPCカードは使用できません。PCカードを購入する際は注意してください。

PCカードの入れ方と出し方

PCカードは、パソコン本体の電源を入れたままの状態で、PCカードスロットにセットします。セットすると自動的に設定が始まり、設定が終わったら、すぐに使えます。

⚠注意

けが注意

PCカードを取り出すときは、ゆっくりイジェクトボタンを押してください。

イジェクトボタンを強く押しすぎると、PCカードの取り出し口に指をぶつけてけがをする恐れがあります。

チェック!!

PCカードは大変精密にできています。PCカードやPCカードスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

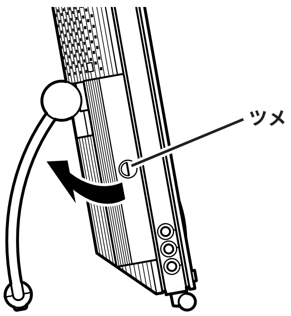
- 高温、多湿、低温の場所に放置しない
- 濡らさない
- 重いものを載せない
- ぶつけたり、落としたりして、衝撃を与えない
- 曲げない
- PCカードの端子部分に金属などを入れない
- PC Card Standardに準拠していないカードを無理に押し込まない

PCカードをセットする

1 パソコンの電源が入っていること、すべてのアプリケーションが終了していることを確認する

2 本体左側面のサイドカバーを開ける

ツメに指を引っかけて、矢印の方向に開きます。

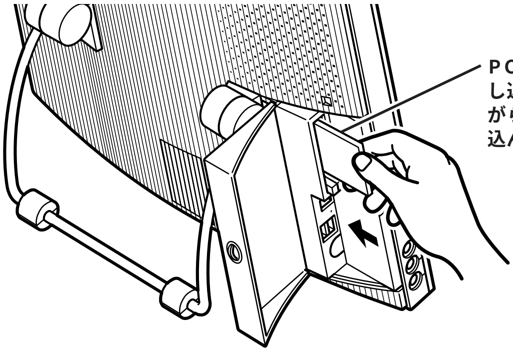


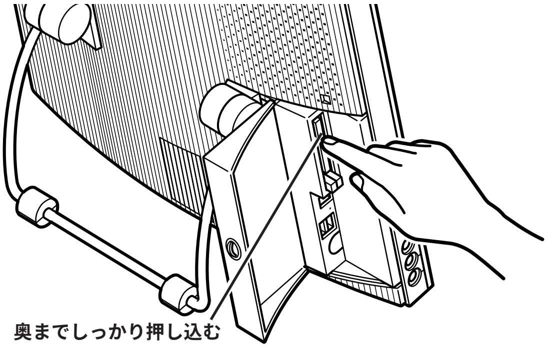
チェック!!

PCカードをセットする前に、このパソコンで使えるPCカードかどうかもう一度確認してください。

PCカードはパソコンの電源を入れたまま、抜き差しができます。

3 **PC カードを、PC カードスロットに静かに差し込み、奥までしっかり押し込んでセットする**





● PC カードの設定

PC カードを PC カードスロットにセットすると、パソコンが自動的に設定を行い、すぐに使用可能な状態になります。

ただし、一度も使ったことのない PC カードをセットしたときは、設定が自動的には行われず、ドライバのインストールを行うための画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示にしたがって操作してください。
なお、この操作を一回行えば、次回以降その PC カードを使うときは、セットしたらすぐに使えるようになります。

チェック!!

- PCカードをセットする前にイジェクトボタンが収納されているか確認してください。ボタンが飛び出したままの状態で PC カードをセットすると、イジェクトボタンが収納できなくなります。
- PC カードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットを破損する恐れがあります。詳しくは、PC カードのマニュアルをご覧ください。
- アプリケーションソフトを使用中は、PC カードを差し込んだり、取り出したりしないでください。
- スタンバイ状態で、PC カードの抜き差しを行わないでください。スタンバイ時のデータが消えてしまい、復元できなくなってしまうことがあります。

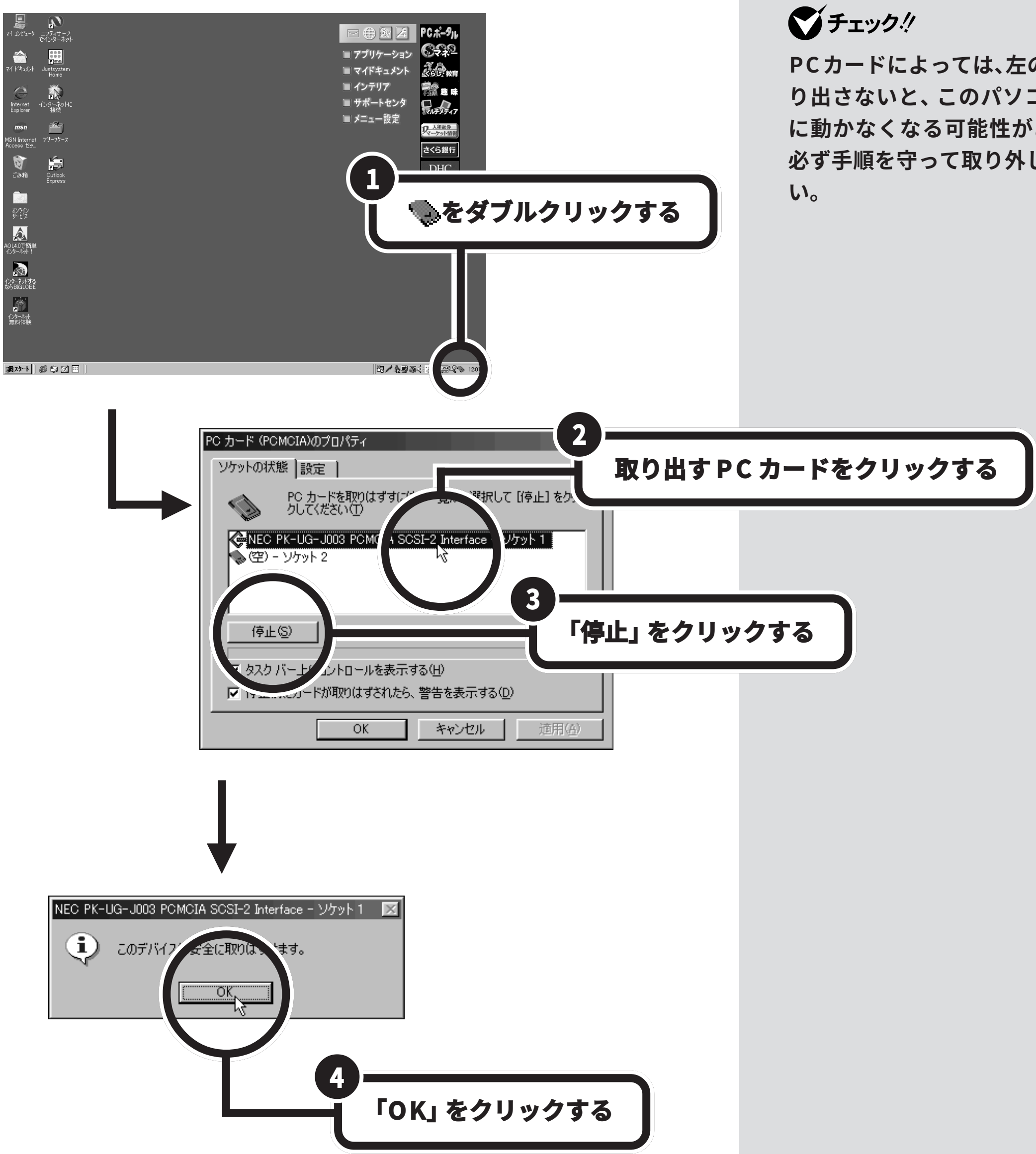
チェック!!

- コネクタを破損する恐れがありますので、PC カードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。
- PCカードにケーブルを取り付けた場合は、サイドカバー下部の切れ込みからケーブルを出してください。
- 使用する PC カードによってはサイドカバーが閉まらないものがあります。

参照

ドライバのインストールについて→PART2 の「ドライバなどをインストールする」(p.17)

PCカードを取り出す

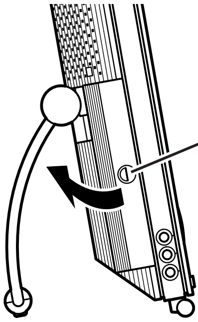


チェック!!

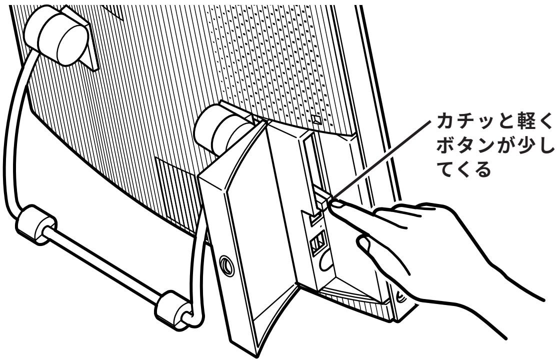
PCカードによっては、左の手順で取り出さないと、このパソコンが正常に動かなくなる可能性があります。必ず手順を守って取り外してください。

5 本体左側面のサイドカバーを開ける

ツメに指を引っかけて、矢印の方向に開きます。



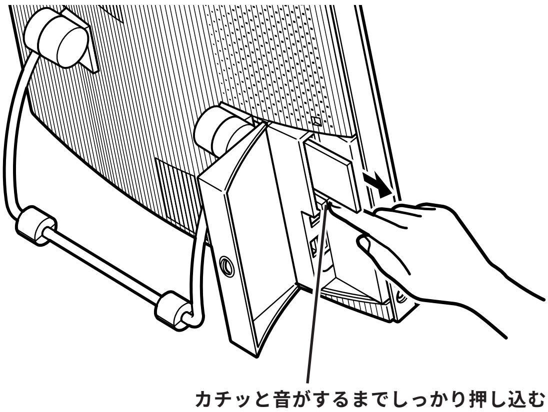
6 イジェクトボタンを軽く押す



チェック!!

PC カードを 2 枚セットしている場合、イジェクトボタンを押す前にスロット番号が前頁の手順②で指定したソケット番号に対応していることを必ず確認してください。ソケット 1 はスロット 0 に、ソケット 2 はスロット 1 にそれぞれ対応しています（p.26 図参照）。

7 もう一度イジェクトボタンを押す

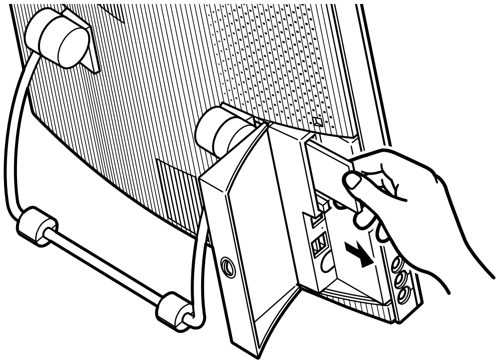


ボタンが飛び出した状態でイジェクトボタンを押し込むと、PCカードスロットにセットされていた PC カードが、少しだけ飛び出します。

チェック!!

イジェクトボタンは、カチッと音がするまでしっかり押し込んでください。

8 出てきたPCカードを、まっすぐに静かに引き抜く



9 サイドカバーを閉める

チェック!!

PCカードを取り出したときに「予期せぬPCカードの取り外しが行なわれました」という画面が表示された場合は、「OK」をクリックしてください。

PART

5

IEEE1394 対応機器を使う

このパソコンにはIEEE1394コネクタがあります。IEEE1394コネクタは、一本のケーブルでパソコンとIEEE1394対応機器の間を、高速でデータのやりとりをすることができます。デジタルビデオカメラなどで撮った動画をスムーズに再生することもできます。

IEEE1394について

このパソコンには、IEEE1394のコネクタがあります。はじめに、IEEE1394 というインターフェイスについて、少し勉強しておきましょう。

IEEE1394って何？

IEEE1394は、パソコンと周辺機器の間で、データを高速にやりとりするための最新の規格です。
転送速度が速いので、動画などのデータもスムーズにパソコンに転送することができ、接続方法も簡単です。パソコンの電源をいちいち切る必要がなく、電源を入れたままで周辺機器の取り付け、取り外しができます。さらに、プラグ＆プレイに対応しているので、パソコンと機器の間の細かい設定は自動的に行われます。

このインターフェイスは、コンピュータの世界ばかりでなく、さまざまな機器に応用されることが期待されています。将来的には、パソコンとデジタルビデオカメラ、ビデオデッキ、プリンタ、MIDI 機器、ハードディスクなどを、一種類のケーブルでつなぐことができるようになります。そうなれば、映像や音声もすべて一本のケーブルでデジタルに転送されます。

用語

IEEE（アイトリプルイー）

米国電気電子技術者協会のことを言います。エレクトロニクス分野では世界最大規模の学会で、電子分野の規格化に大きな影響力をもっています。IEEE1394は、IEEEで標準化されたインターフェイスの規格です。

用語

プラグ＆プレイ

パソコン本体に周辺機器をつなぐと自動的に種類を認識して必要な設定を行う機構。

つなぐ（プラグ）だけですぐに使える(プレイ)ことから付いた呼び名です。

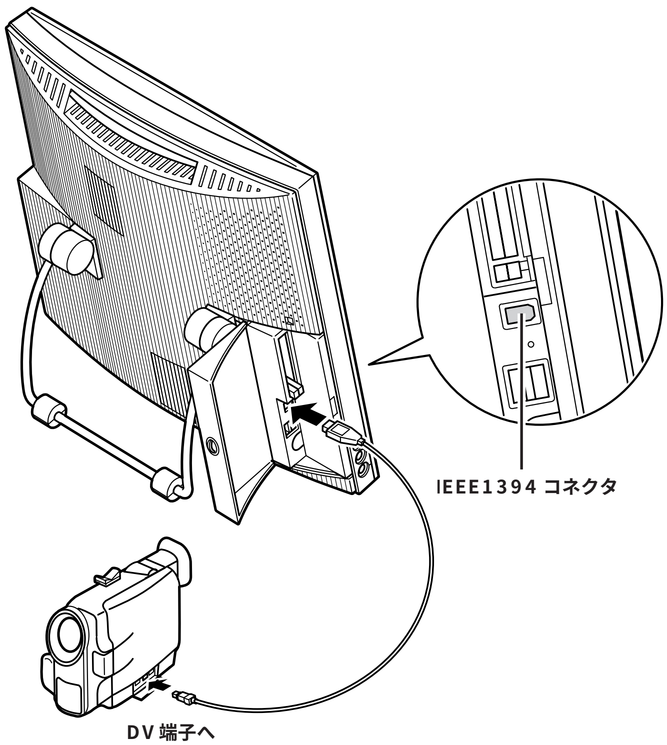
IEEE1394対応機器を接続する

ここでは、例としてデジタルビデオカメラをIEEE1394コネクタに接続する方法を説明しています。

デジタルビデオカメラの接続は、IEEE1394 ケーブルを使ってパソコンのIEEE1394 コネクタとデジタルビデオカメラのIEEE1394 コネクタ（DV 端子）を接続するだけです。

●デジタルビデオカメラを接続する

IEEE1394ケーブルでこのパソコンとデジタルビデオカメラを接続します。このパソコンには、左側面にIEEE1394 コネクタが用意されています。



IEEE1394コネクタに接続できる周辺機器には、ほかにCD-RW ドライブなどがあります。

デジタルビデオカメラによっては、IEEE1394に対応した端子のことをDV 端子と呼びます。

チェック!!

DV 端子（4 ピン）とこのパソコンのIEEE1394 コネクタ（6 ピン）を接続するには、別売のIEEE1394ケーブル（PK-CA109）が必要です。

チェック!!

接続の際にはプラグの向きに注意してください。また、接続の際には周辺機器に添付のマニュアルもご覧ください。

IEEE1394 コネクタは、入力用、出力用といった 2 種類のコネクタにはなっていません。デジタル信号の流れによって自動的に入出力が切り替わります。

デジタルビデオカメラの映像は、「Video Wizard」を使って取り込み、編集ができます。デジタルビデオカメラを接続した後、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Ulead VideoStudio 3.0 DV SE」→「Ulead Video Wizard」をクリックして「Video Wizard」を起動し、画面の指示にしたがって操作してください。編集後の映像をビデオテープに出力したい場合は、「Video Wizard」での編集後、「5.作成」をクリックし、「VideoStudioで開く」をクリックした後、「完了」を選択してください。
なお、「VideoStudio」では、画面上部のメニューの順に作業を進めていくと、ビデオ編集ができます。

●IEEE1394接続ケーブル（6ピン-6ピン）を接続する

IEEE1394接続ケーブル（6ピン-6ピン）でパソコン同士を接続すると、パソコン間でプリンタやファイルを共有したり、データの移動が簡単、高速にできます。
接続には「IEEE 1394 Network Driver Ver.1.0」が必要になります。このパソコンには、このドライバがインストールされていますので、組み込み作業を行ってからお使いください。
ドライバの組み込み手順については、「スタート」ボタン→「サポートセンタ」→「追加情報」をクリックして、「追加情報」をご覧ください。

付　録

困ったときのチェックポイント

増設した周辺機器やパソコンがうまく動かないときは、次の点をチェックしてみてください。

●電源は入っていますか？

外付けの周辺機器の場合には、取り付けた周辺機器の電源が入っていることを確認してください。

●取り付けた周辺機器は、このパソコンで使えるものですか？

取り付けた周辺機器がこのパソコンで使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルを読んだり、ご購入元、または周辺機器のメーカーなどへ問い合わせて、確認してください。

●ケーブルは正しく接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンや周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたり、ずれたりしていることがよくあります。ケーブルがきちんと接続されているか、確認してください。

●ドライバは組み込みましたか？

周辺機器によっては、機器を取り付けた後、パソコン側にドライバ（やソフト）を組み込む必要のあるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しくドライバを組み込んでください。

ドライバの情報は、このパソコンや周辺機器のReadmeファイルに書いてあることがあります。

また、周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器のメーカーに問い合わせて、最新のドライバを入手してください。

参照
ドライバについて→ PART2 の「ドライバなどをインストールする」（p.17）

●周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を一度に複数取り付けると、不具合があったとき、原因究明が困難になります。このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外し、1つずつ取り付けてパソコンの動作を確認してください。

●設定はしましたか？

プレイパッドのように、接続したあとで設定の必要な機器があります。

●他の機器とリソースが競合していませんか？

システムのリソースが足りない場合、他の使用していないリソースを一時的に外し、そのリソースを割り当てる必要があります。リソースの割り当ては、デバイスマネージャを使って変更します。

このパソコンが使用しているリソース

このパソコンは、次のようにリソースを使用しています（購入時の設定）。

●割り込みレベル（IRQ）

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	（空き）
4	（空き）
5	（空き）
6	CardBus
7	（空き）
8	リアルタイムクロック
9	サウンド/SMBus/IEEE1394/ACPI
10	アクセラレータ
11	USB/モデム/CardBus
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ（プライマリ）
15	IDEコントローラ（セカンダリ）

●DMAチャネル

DMA	機能
#0	（空き）
#1	（空き）
#2	（空き）
#3	（空き）
#4	DMAコントローラ
#5	（空き）
#6	（空き）
#7	（空き）

メモリを増やす

メモリはパソコンの机と考えることができます。机を広くすれば作業がしやすくなるのと同じように、メモリの量を増やし、より多くすればパソコンの処理速度が向上します。

メモリを増やすには

このパソコンでメモリを増やすときは、別売の「増設RAMボード」というボードを、専用のコネクタに取り付けます。最大で256Mバイトまで増やすことができます。

> メモリを増やすには、本体内部に増設RAMボードを取り付けます。増設RAMボードの取り付けは、NECカスタマサービス、NEC PCクリーンスポットのアップグレードサービス（有料）のご利用をおすすめします。

どのくらいメモリを増やすかを決める（→p.41）

最大256Mバイトまで増やせます。

↓

必要なものを準備する

必要な増設RAMボード等を準備します。また、プラス（+）のドライバーが必要です。

↓

増設RAMボードを取り付ける（→p.44）

本体を静かに倒し、背面のカバーを取り外して、用意した増設RAMボードをメモリスロットに取り付けます。取り付けたら、本体背面カバーをもとどおりに取り付けます。

↓

メモリが増えたかどうか確認する（→p.50）

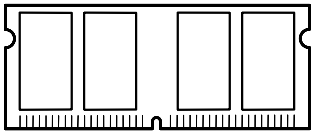
本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

このパソコンで使える増設 RAM ボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMボード」というボードを使います。
このパソコンでは、「DIMM」と呼ばれるタイプの次のような増設 RAM ボードを使うことができます。

DIMM（ディム）は、Dual Inline Memory Moduleの頭文字をとったものです。

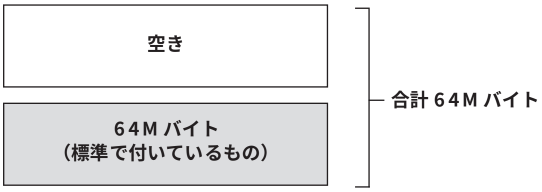
型　名	メモリ容量
PK-UG-M024	64M バイト
PK-UG-M025	128M バイト



メモリの増やし方の例

このパソコンには、増設 RAM ボード（DIMM）を差し込むスロットが、2 つ用意されています。標準では、この内の 1 つのスロットに 64M バイトの RAM ボードが差し込まれています。

増設RAMボードに対して、パソコンに最初から取り付けられているメモリのことを「RAM ボード」といいます。

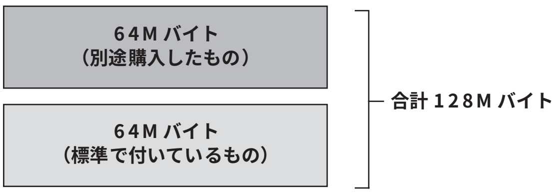


空いている残りの 1 スロットに、増設 RAM ボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMボードを取り外して、より大きな容量の増設 RAM ボードに取り替えることも可能です。
メモリは、最大で 256M バイト（128M バイトの増設 RAM ボード× 2 枚）まで増やすことができます。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より 0.4M バイト少ない値になります。

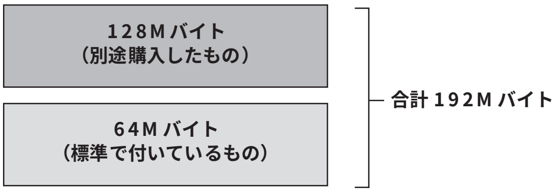
・例 1：128M バイトにする場合

空いているスロットの 1 つに 64M バイトの増設 RAM ボードを追加すれば、標準で入っている 64M バイトのメモリと合わせて 128M バイトにすることができます。



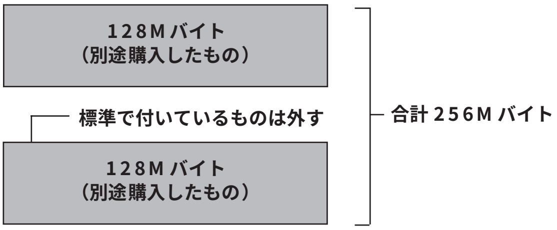
・例 2：192M バイトにする場合

128M バイトの増設 RAM ボードを 1 枚追加します。



・例 3：256M バイト（最大）にする場合

標準で付いている RAM ボードを外し、128M バイトの増設 RAM ボードを 2 枚追加します。



チェック!!

メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した標準の RAM ボードは大切に保管してください。

増設RAMボードを取り付けるときのご注意

カバーを開けて、増設RAMボードを取り付けるときには、次の点にご注意ください。

⚠警告

感電注意

雷が鳴り出したら、パソコンや電源ケーブル、モジュラーケーブル（電話線）、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意

けが注意

増設RAMボードを取り付けるときは、本体内部の板金などに指をはさんだり、ぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

感電注意

濡れた手で触らないでください。

電源ケーブルがコンセントに接続されているとき、濡れた手で本体に触れると感電の原因となります。

感電注意

電源ケーブルがコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。

感電の原因となります。

感電注意

周辺機器の取り付けや取り外しをするときは、必ず電源ケーブルのプラグを、コンセントから抜いてください。

パソコンや周辺機器の故障や感電の原因となります。

高温注意

このパソコンの使用直後は、増設RAMボードの取り付けをしないでください。

本体内部が高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

発火注意

電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

ケーブルを引っ張って抜くと、断線して火災の原因となります。

感電注意　発火注意

本体を解体した状態で使用しないでください。

感電や火災の原因となります。

増設RAMボードの取り付けと取り外し

ここでは、増設RAMボード（RAMボード）の取り付け方と、取り外し方を説明します。

増設RAMボードの取り付け/取り外しは、NECカスタマサービス、NEC PCクリーンスポットのアップグレードサービス（有料）のご利用をおすすめします。

⚠注意

発火注意

増設RAMボードは以下の手順に従って正しく取り付けてください。

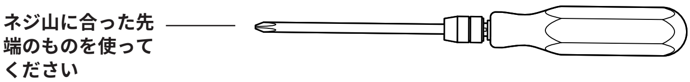
正しく取り付けられていないと、発煙、火災の原因となります。

ボードを取り扱うときに気をつけること

増設RAMボードおよび標準で付いているRAMボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でこれらのボードに触れると、ボードが破損する原因となります。ボードに触れる前に、身近な金属（アルミサッシやドアのノブなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

なお、増設RAMボードの取り付け、取り外しの際は、プラス（＋）ドライバーが必要です。

ドライバーの先端が磁石になったものをおすすめします。



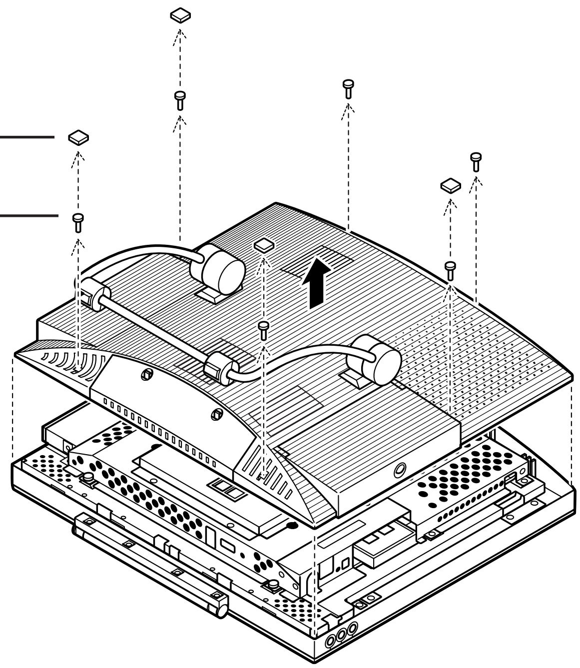
増設 RAM ボードの取り付け方

1 **パソコン本体の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜く**

2 **本体に接続されているケーブルをすべて取り外す**

3 **本体正面（液晶画面のある面）を下向きに伏せるように、静かに倒す**

4 **本体背面のカバーを固定しているネジ 6 本を外し、カバーを取り外す**
上部 2 つ以外のネジには、ゴムカバー（4 個）が付いているのでそれも外してください。



チェック!!

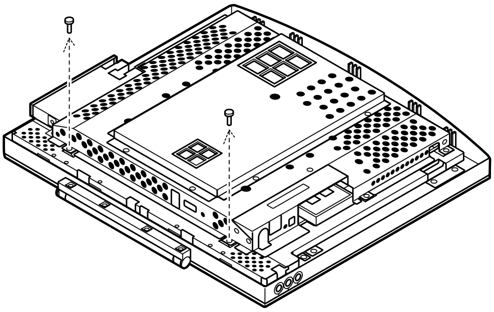
手順 4 以降で、作業中に液晶画面を傷つけたりしないように、本体を倒すときは、下に厚手の紙や布などを敷いてください。

ゴムカバーを外すときは、クリップ等の先の細いものでひっかけるようにして外します。

チェック!!

- 外したゴムカバーとネジをなくさないように、気を付けてください。
- PC カードスロットのイジェクトボタンが飛び出したままになっていると、カバーを外すときにイジェクトボタンが壊れる可能性があります。必ずイジェクトボタンがきちんと収納されているか確認してください。
- カバーには下に 1 カ所、上に 2 カ所ツメがあります。カバーを外すときは、上側のツメを先に外してから下側のツメを外してください。

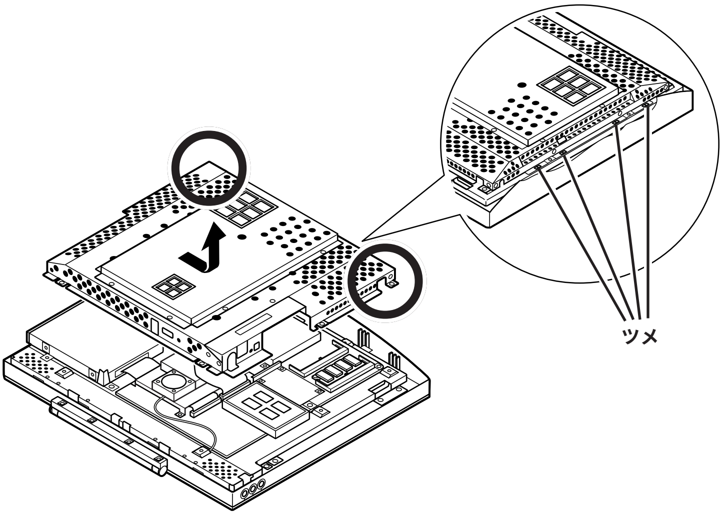
5 本体内部のカバーを固定しているネジ 2 本を外す



チェック!!

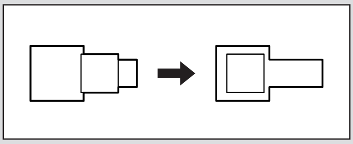
外したネジはなくさないでください。

6 本体内部のカバーを右(矢印の方向)にずらし、上部の 4 つのツメを外し、持ち上げる



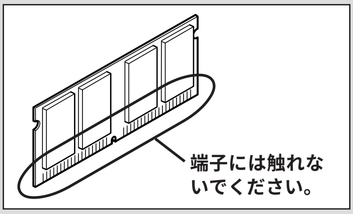
チェック!!

- カバーを外す際、金属のふちなどでけがをしたりしないように手袋等をはめて作業を行うようにしてください。
- カバーを外すときには、PCカードスロットの部分を持って外さないでください。PCカードスロットが壊れる可能性があります。
- カバーを外すときは、左図の○印の部分を両手で持ってスライドさせてツメを外し、カバーを持ち上げてください。

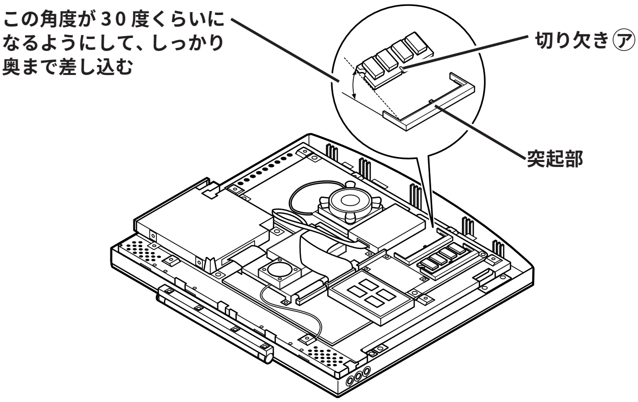


図のようにツメを外す。(4 カ所)

増設RAMボードは、両手で持ってください。



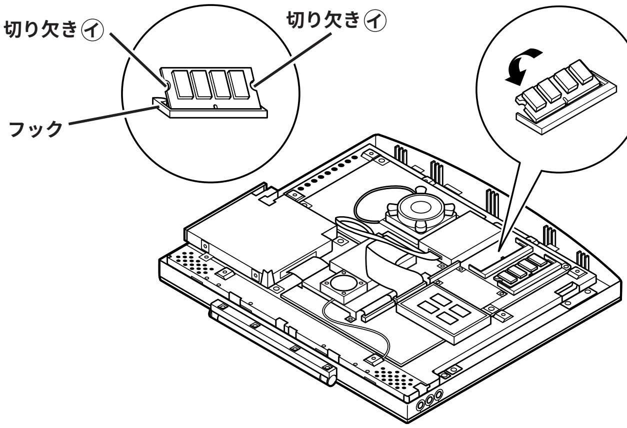
7 増設RAMボードの切り欠き㋐を本体のメモリスロットの突起部に合わせ、メモリスロットに斜めに(30度くらいの角度で)しっかり差し込む



チェック!!

- ボードの表裏を間違えないようにしてください。表裏が違っていると、切り欠き㋐と突起部がきちんと合いません。無理に押し込んだりしないでください。
- 増設 RAM ボードの端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

8 スロット両側のフックが切り欠き㋑に引っかかり、カチッと音がする位置まで、増設 RAM ボードを本体側に倒して固定する

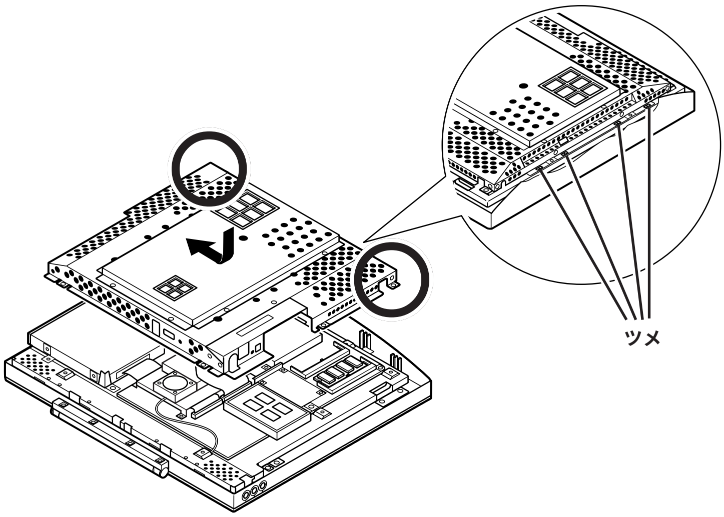


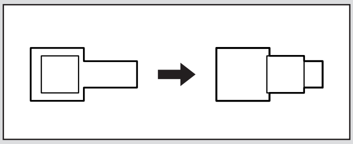
チェック!!

しっかり取り付けておかないと、故障の原因になります。

9 手順 6 で取り外したカバーをもとどおりに取り付ける

カバーを左(矢印の方向) へスライドさせ、4 つのツメをしっかりはめ込んでください。





図のようにツメをはめ込む。(4 カ所)

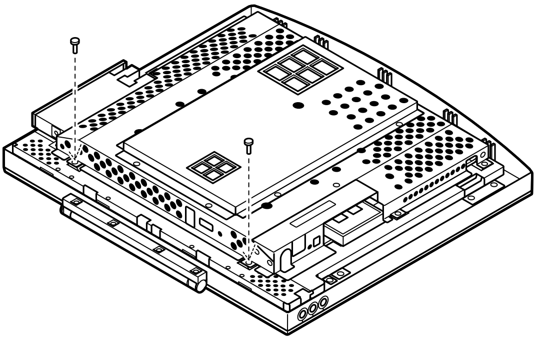
チェック!!

- カバーを取り付ける前にケーブルが抜けていないか確認してください。
- カバーを取り付けるときは、金属のふちなどでけがをしたりしないように手袋等をはめて作業してください。
- カバーを取り付けるときに、本体上部のアンテナケーブル(下図)をはさまないように十分注意してください。



- カバーを取り付ける際は、左図の○印の部分を持ってください。

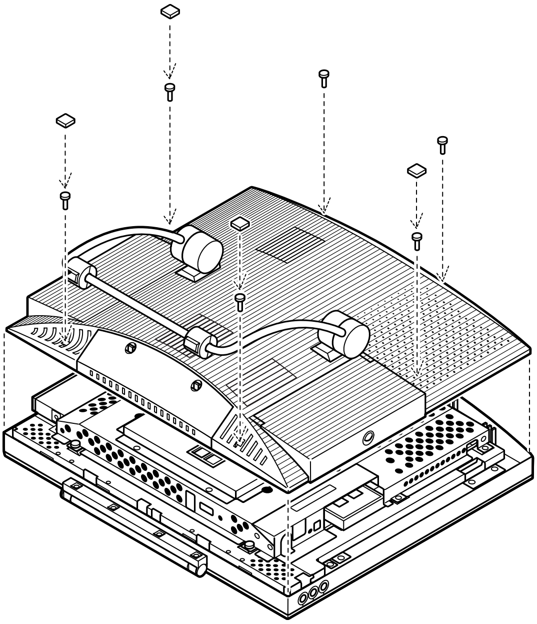
10 ネジ 2 本でカバーを固定する



> **チェック!!**
> ネジを本体内部に落とさないよう、注意してください。

11 本体背面カバーを外したときと逆の手順で取り付け、ネジ 6 本で固定する

上部 2 つ以外のネジは、ゴムカバー（4 個）も元通りに付けてください。



> **チェック!!**
> ・PC カードスロットのイジェクトボタンが飛び出したままになっていると、カバーに当たってイジェクトボタンが壊れてしまいます。必ずイジェクトボタンがきちんと収納されているか確認してください。
> ・カバーが確実に取り付けられているか、カバーの四隅と側面中央部の合わせ目を確認してください。

12 パソコン本体を元通りに起こす

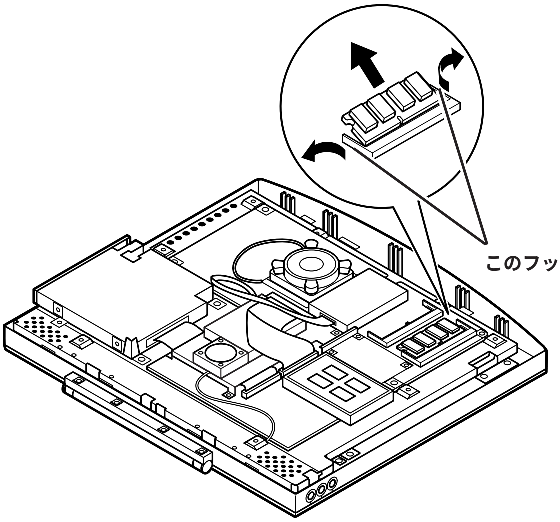
13 手順 2 で外したケーブルを元通りに接続する

> 参照
> ケーブルの接続→『まずこれ! 接続と準備』の「PART1 パソコンを接続する」

RAM ボードの取り外し方

1 **p.45 ～ 46 の手順 1 ～ 6 の記述にしたがって、本体のカバーを取り外す**

2 **メモリスロット両端のフックを左右に押し広げてロックを外し、RAM ボードを斜めに引き抜く**



3 **p.47 ～ 48 の手順 9 ～ 13 の記述にしたがって、本体のカバーを元通りに取り付けて、ネジで固定し、ケーブルを元通りに接続する**

左の手順は標準で取り付けられている RAM ボードを取り外している例ですが、後から取り付けた増設RAMボードを取り外すときも、これと同じ手順で行います。

チェック!!

- フックを開きすぎて破損してしまわないように気をつけてください。
- メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外したRAMボードや増設RAMボードは、大切に保管してください。

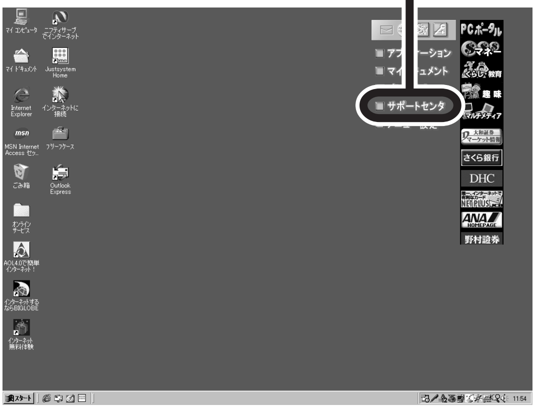
増やしたメモリを確認する

パソコンの電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

確認のしかた

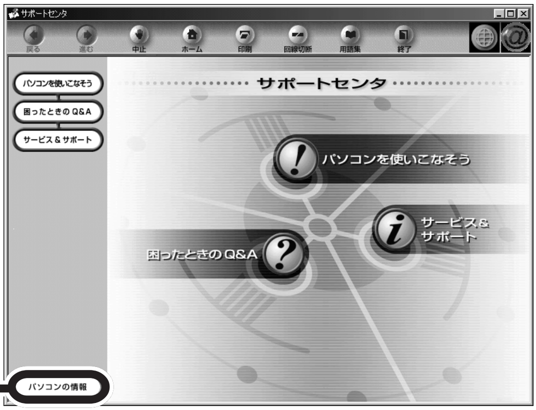
1

サポートセンタを起動する
アクティブメニューNXの「サポートセンタ」をクリックします。



2

「パソコンの情報」をクリック



メモリはWindows 98の「システム情報」からも確認することができます。（「スタート」-「プログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「システム情報」）

3 メモリ容量を確認する



ここに表示されたメモリ容量を確認する
（ここには、増やした後の全メモリ容量（標準で入っている容量＋増設した容量）が表示されます）

チェック!!
ここでは、増やした後の全メモリ容量より数Ｍバイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

●メモリが正しく取り付けられているか？

●このパソコンで使える増設RAMボードを取り付けているか？

FAXモデムボードの取り付けと取り外し

ここでは、FAXモデムボードの取り付け方と、取り外し方を説明します。

⚠注意

けが注意

FAX モデムボードの取り付け / 取り外しをするときは、本体内部の板金などに指をはさんだり、ぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

感電注意

濡れた手で触らないでください。
電源ケーブルがコンセントに接続されているとき、濡れた手で本体に触れると感電の原因となります。

感電注意

電源ケーブルがコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。
感電の原因となります。

感電注意

周辺機器の取り付けや取り外しをするときは、必ず電源ケーブルのプラグを、コンセントから抜いてください。
パソコンや周辺機器の故障や感電の原因となります。

高温注意

このパソコンの使用直後は、FAX モデムボードの取り付け / 取り外しをしないでください。
本体内部が高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

発火注意

電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
ケーブルを引っ張って抜くと、断線して火災の原因となります。

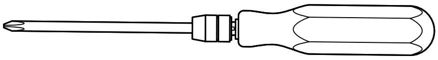
感電注意 発火注意

本体を解体した状態で使用しないでください。
感電や火災の原因となります。

ボードを取り扱うときに気をつけること

FAXモデムボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でFAXモデムボードに触れると、FAXモデムボードが破損する原因となります。FAXモデムボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。
なお、FAXモデムボードの取り付け、取り外しの際には、プラス(+)ドライバーが必要です。

ネジ山に合った先端のものを使ってください



ドライバーの先端が磁石になったものをおすすめします。

FAX モデムボードの取り付け方

1 **パソコン本体の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜く**

2 **本体に接続されているケーブルをすべて取り外す**

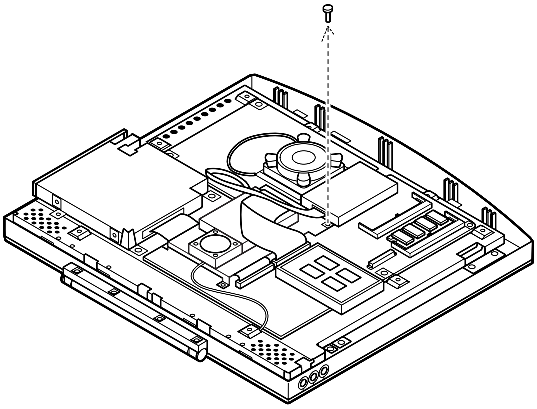
3 **本体正面(液晶画面のある面)を下向きに伏せるように、静かに倒す**

4 **本体背面と内部のカバーを外す**
カバーの外し方は、「増設 RAM ボードの取り付け方」(p.45 ～ 46) の手順 4 ～ 6 をご覧ください。

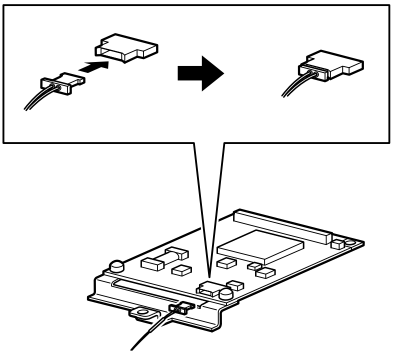
チェック!!
手順 4 以降で、作業中に液晶画面を傷つけたりしないように、本体を倒すときは、下に厚い紙や布などを敷いてください。

チェック!!
カバーを外すときは、金属のふちなどで、けがをしないように手袋等をはめて作業を行うようにしてください。

5 FAX モデムボードを固定するためのネジ 1 本を外す



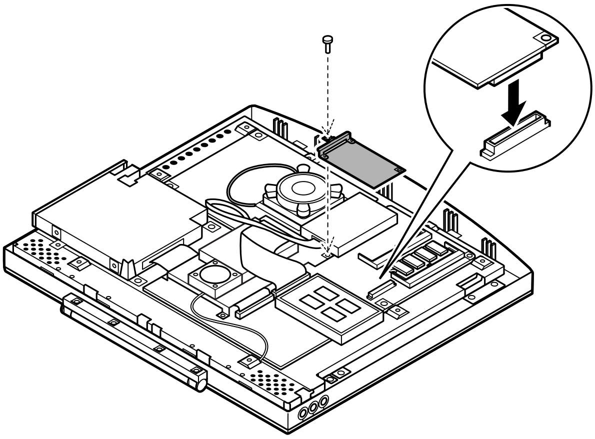
6 モデムケーブルをFAXモデムボードの裏側にあるコネクタに接続する



チェック!!

- モデムケーブルを接続するときは、ケーブル部分を引っ張らないように注意してください。ケーブルの断線など、故障の原因となります。
- FAX モデムボードの端子部分や、ボード上の部品、ハンダ付け面に触れないように注意してください。

7 FAXモデムボードをまっすぐ下に差し込み、ネジ 1 本で固定する



チェック!!

FAX モデムボードの端子部分や、ボード上の部品、ハンダ付け面に触れないように注意してください。

8 **本体内部と背面のカバーを元通りに取り付ける**
カバーの取り付け方は、「増設RAMボードの取り付け方」(p.47～48)の手順9～11をご覧ください。

9 **パソコン本体を元通りに起こす**

10 **手順2で外したケーブルを元通りに接続する**

FAXモデムボードの取り外し方

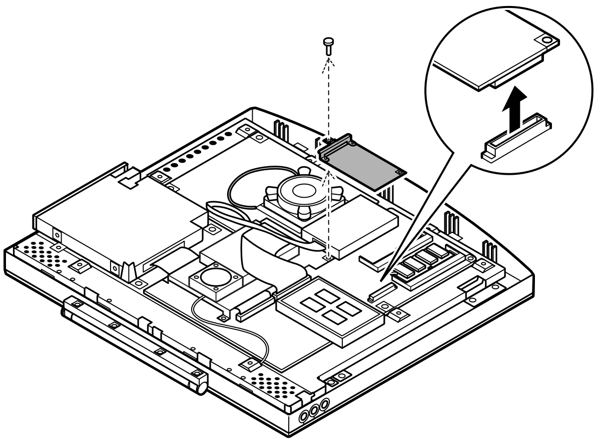
1 **パソコン本体の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜く**

2 **本体に接続されているケーブルをすべて取り外す**

3 **本体正面(液晶画面のある面)を下向きに伏せるように、静かに倒す**

4 **本体背面と内部のカバーを外す**
カバーの外し方は、「増設RAMボードの取り付け方」(p.45～46)の手順4～6をご覧ください。

5 **FAXモデムボードを固定しているネジ1本を外し、FAXモデムボードをまっすぐ上に引き抜く**



チェック!!

手順4以降で、作業中に液晶画面を傷つけたりしないように、本体を倒すときは、下に厚い紙や布などを敷いてください。

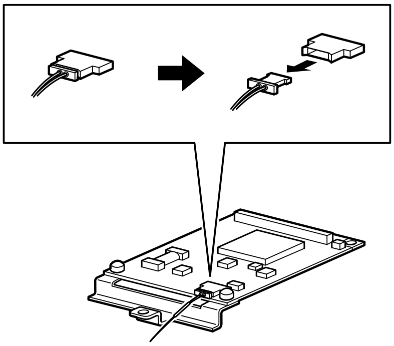
チェック!!

カバーを外すときは、金属のふちなどで、けがをしないように手袋等をはめて作業を行うようにしてください。

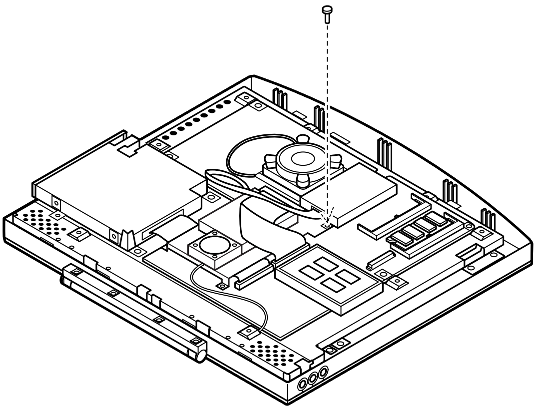
チェック!!

- FAXモデムボードを外すときは、FAXモデムボードの両端の部分を両手で持ってまっすぐ上に引き抜くようにしてください。
- 本体とFAXモデムボードは、モデムケーブルで接続されています。モデムケーブルを引っ張らないように注意してください。ケーブルの断線など故障の原因になります。
- FAXモデムボードの端子部分や、ボード上の部品、ハンダ付け面に触れないように注意してください。

6 **FAX モデムボードを裏返して、FAX モデムボードから出ているモデムケーブルをコネクタから取り外す**



7 **手順 5 で外したネジ 1 本を、元の場所に取り付ける**



8 **本体内部と背面のカバーを元通りに取り付ける**

カバーの取り付け方は、「増設 RAM ボードの取り付け方」(p.47 〜 48) の手順 9 〜 11 をご覧ください。

9 **パソコン本体を元通りに起こす**

10 **手順 2 で外したケーブルを元通りに接続する**

チェック!!

- モデムケーブルは、プラグ部分を持ってはずしてください。ケーブル部分を引っ張って外すとケーブルの断線など故障の原因となります。
- FAX モデムボードの端子部分や、ボード上の部品、ハンダ付け面に触れないよう注意してください。

索　引

ヘッドセットマイク販売サービスのご案内

この度は、弊社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
弊社では､下記のヘッドセットマイクの販売サービスを行っておりますのでご利用ください。
お申し込みの際は裏面の必要事項をご記入いただき、ＦＡＸでお送りください。

ヘッドセットマイク（PK-SU005 同等品）　価格：5,200 円（送料込、税別）

- 頭に装着するヘッドセットタイプ
  口とマイクの距離を保ちやすく、安定した音声入力ができるため、音声認識に適しています。
- モノラルヘッドホン、マイク ON/OFF スイッチ付。
- 入力レベル変換プラグを添付
  お使いのコンピュータの入力レベルが低い場合には､添付の入力レベル変換プラグを接続することで、入力レベルを上げることができます。

ご注意事項

本申し込み用紙の有効期限は 2000 年 9 月末日となっております。有効期限後にご購入される場合には弊社下記窓口にお問い合わせください。
代金お支払いの際は、必ず弊社から送付された専用の振込用紙をご使用ください。それ以外の用紙でお支払いになると、商品を発送できない場合があります。また、用紙にあらかじめ記載されている事項は、それを修正して郵便局または銀行に提出されても、弊社に修正内容が届かない場合があります。お申し込み内容の変更等につきましては、必ず弊社下記窓口へご連絡ください。

＜お申し込み方法､納期などのお問い合わせ先＞
NEC パーソナルソフトウェア カスタマサービスセンター
〒 305-0045 茨城県つくば市梅園 2-17-9
TEL　0298-50-3210
受付時間 9:00 〜 17:00（土・日・祝祭日を除く）
FAX　0298-50-3216
（電話・FAX は番号をよくお確かめのうえおかけください。）

＜その他､商品に関する技術的なお問い合わせ先＞
NEC パソコンインフォメーションセンター
ﾌﾘｰﾀﾞｲﾔﾙ 0120-60-9821
受付時間 9:00 〜 17:00（祝祭日を除く）
（電話番号をよくお確かめのうえおかけください。）

この方向にＦＡＸしてください

ＦＡＸ：０２９８−５０−３２１６

ヘッドセットマイク購入申込書

１．お申し込み内容

商品コード	製品名	価格
808-879632-002-A	ヘッドセットマイク （モノラルヘッドホン付）	５，４６０円（送料、税込）

２．お支払い方法

１．郵便振込　２．銀行振込　※ご希望の番号に○印をご記入ください。

ご希望のお支払い方法に基づく専用振込用紙をお送りいたします。
商品はお客様のご入金を弊社にて確認後、２週間以内にお届けいたします。
お客様が代金お支払い後、弊社にてそれを確認できるまでに、７日から１０日かかります。
代金お支払いの際に発行される郵便局の受領証、または銀行の受取書は商品到着まで大切に保管してください。
なお、受領証または受取書をもって領収書にかえさせていただきますのでご了承ください。

３．商品お届け先

商品のお届け先をご記入ください。

ー郵便番号

ー住所

ー氏名

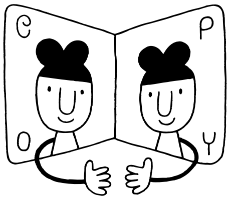
ー電話番号

※以下の項目は法人でご購入の方のみご記入ください。

ー法人名

ー所属部署名

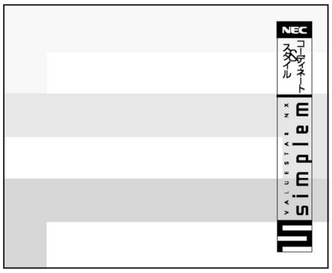
キリトリ



人とパソコンの新しい関係

パソコンを難しく考えることはありません。あなた自身の楽しみ方で、パソコンをコーディネートしてみましょう。そこには、パソコンが生活空間の一部になった、人とパソコンの新しい関係を発見できるはずです。

パソコンと美しく暮らす方法、少し考えてみませんか？

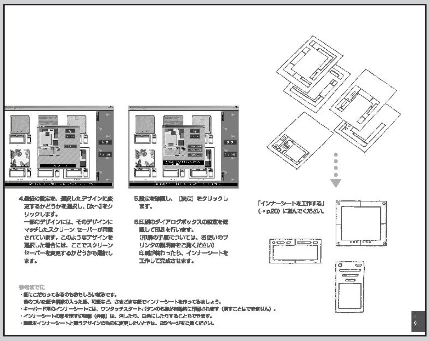


『コーディネート＆スタイル』

部屋の模様替えをするように、パソコンも好みに合わせて着替えたい。そう思いませんか？ simplem は、本体、キーボード、インターネットパッドの「インナーシート」を取りかえることで、自分だけのデザインを簡単に楽しむことのできるパソコンです。さらに「DEJIG PHOTO GALLERY（デジグフォトギャラリー）」を使えば、美しい画像を次々に表示させたり、画面でジグソーパズルを楽しんだりできます。

『コーディネート＆スタイル』では、これらの機能を使って、simplem を自分のスタイルでコーディネートするための提案とお手伝いをします。

「インナーシートクリエータ」で、あなただけのデザインを！



「フォトギャラリー」で、パソコンを生活空間の一部に！



NEC

5 拡張の手引き

VALUESTAR NX

simplem

初版　2000年1月
NEC
P

808-884545-008-A

このマニュアルはエコマーク認定の再生紙
（古紙率：表紙 50%、本文 100%）を使用しています。